

## 第43回原産年次大会 セッション内容

基調テーマ：エネルギー供給と温暖化対策の担い手として 原子力の将来を考える

**開会セッション** 4月21日(水) 9:30～10:10

### 原産協会会長所信表明

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

### 内閣総理大臣所感

鳩山 由紀夫 内閣総理大臣  
(代読) 近藤 洋介 経済産業大臣政務官

### 島根県知事挨拶

溝口 善兵衛 島根県知事

### 松江市長挨拶

松浦 正敬 松江市長

**特別講演** 4月21日(水) 10:10～12:40

天野 之弥 国際原子力機関(IAEA) 事務局長  
「グローバル・イシューの解決に取り組むIAEA」

ベルナール ビゴ フランス原子力・代替エネルギー庁(CEA) 長官  
(代読) ピエール イブ コルディエ 駐日フランス大使館 原子力参事官  
「長期エネルギー安全保障および環境保護に関するフランスの政策と戦略：原子力に期待される役割」

ウォーレン ミラー 米国エネルギー省(DOE) 原子力担当次官補  
「オバマ政権の原子力政策」

ピョートル シェドロビツキー ロシア ロスアトム 副総裁  
「ロシアの原子力産業とグローバル展開」

リチャード ジョーンズ 国際エネルギー機関(IEA) 事務局次長  
「クリーンエネルギー技術の展開」(ビデオ講演)

**特別イベント：佐陀神能**

4月21日(水) 13:10～13:50

佐陀神能は、出雲國三大社のひとつとして称えられた佐太神社の祭事「御座替祭」にあわせて執り行われる神事舞の総称。古式ゆかしい神話の舞を笛や太鼓に合わせて演じるもので、出雲流神楽の源流とされ、全国各地に伝わる里神楽に大きな影響を与えたといわれている。島根原子力発電所が立地する松江市鹿島町に伝わる国の重要無形民俗文化財であり、ユネスコの世界無形文化遺産への登録が予定されている。

**セッション1**

4月21日(水) 14:00～17:00

**気候変動問題解決の切り札として、原子力をどう位置づけるか**

政権交代により誕生した民主党政権は、温室効果ガスを2020年までに1990年比25%削減という中期目標を掲げているが、具体策は明確化されていない。既に、原子力発電は二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献しており、その有効活用(既設炉の高度利用、新增設)なくしては、削減目標の達成は不可能といえる。

ここでは、世界的な気候変動問題に関する状況をお話しいただいた上で、わが国のエネルギー・原子力政策はどうあるべきか、気候変動問題の解決にむけて原子力をどう位置づけるべきかを考える。

**議長：** 鳥井 弘之 元 日本経済新聞社論説委員

**基調講演：**

フランツ=ミカエル スキョル メルビン 駐日デンマーク大使  
「原子力がグリーン・フューチャーの一部となるために」

**パネル討論：**

秋元 圭吾 (財)地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー  
鈴木 達治郎 原子力委員会 委員長代理  
東嶋 和子 科学ジャーナリスト  
松井 三生 中国電力(株) 取締役副社長 電源事業本部長

## セッション2

4月22日(木) 9:30~12:30

### 原子カルネッサンスの実現に向けて 各国の原子力・エネルギー政策と展望

気候変動とエネルギー安全保障問題の解決手段としての原子力に対する評価が世界的に高まり、一時原子力開発にブレーキをかけていた国々による原子力利用への復帰や、新規に原子力発電の導入を計画する国々が増加している。このような「原子カルネッサンス」と呼ばれる動きを現実のものとするためには、燃料供給、使用済燃料や廃棄物の処理処分、3S（保障措置、原子力安全、核セキュリティ）に対して世界的規模で対応することが必要であり、人材確保・育成や規制の透明性が重要である。

ここでは、各国より自国の原子力・エネルギー政策を紹介いただき、原子カルネッサンスの実現に向けて取り組むべき課題とその解決策について考える。

**議長：** 服部 拓也 (社)日本原子力産業協会 理事長、  
一般財団法人 原子力国際協力センター 理事長

**講演：**

ファム カイン トアン ベトナム商工省 エネルギー研究所 所長  
「実現へと動き出したベトナムの原子力発電導入計画」

ヤン チー 中国核能行業協会 副理事長、中国核動力研究設計院 名誉院長  
「躍進する中国の原子力発電開発戦略」

カン チャンソン 韓国原子力産業会議 副会長、国立ソウル大学 名誉教授  
「原子力発電利用の世界的な拡大に向けて 韓国の試み」

タダス マトゥリヨニス リトアニア ヴィサギナス原子力発電社(VAE)  
プロジェクト・マネージメント部長  
「ヴィサギナス原子力発電所新設プロジェクトの概要」(ビデオ講演)

## 特別イベント：石見神楽

4月22日(水) 13:00~13:30

石見神楽は、往時、神の御心を和ませるといふ神職による神事であったものが明治初期から土地の人々のものになり、民族芸能として演舞されるようになった。そのリズムは、他に類を見ない勇壮にして活発な八調子と呼ばれるテンポの早いもので、大太鼓、小太鼓、手拍子、笛を用いての囃子で演じられ、見る人を神話の世界に誘う。例祭への奉納はもとより、各種の祭事、祝事の場に欠かすことのできないものとなっており、島根県の広く誇れる郷土芸能である。

### セッション3

4月22日(木) 13:40～17:00

#### 原子力発電所のある町で、私たちは考える 島根県の原子力、40年とこれから

島根県では、1970(昭和45)年の島根原子力発電所1号機の着工から40年が経ち、現在、2011(平成23)年の営業運転開始に向けて3号機の建設が進められている。原子力発電所とともに過ごしてきた島根県は、中国地域の電力供給を担う誇りと同時に原子力をめぐる課題を抱えてきた。

このセッションでは、市民も含めた関係者等の目を通して、幅広い角度から「原子力発電所と立地地域の共生・共益」等を考えつつ、原子力発電を推進する上での社会とのコミュニケーションや合意形成のあり方について問題提起・意見交換を行い、課題解決策を探る。

#### ファシリテータ :

八木 絵香 大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 特任准教授

#### 基調講演 :

ヒルデガルト コルネリウス=ガウス ドイツ・ヘッセン州ビブリス町長  
「ドイツにおける不確実な原子力の将来とビブリスへの影響」

#### パネル討論 :

井川 陽次郎	読売新聞 論説委員
石原 孝子	松江エネルギー研究会 代表
大谷 厚郎	松江商工会議所 副会頭
山名 元	京都大学 原子炉実験所 原子力基礎工学研究部門 教授
山本 廣基	島根大学 学長

以上